

7回生 寺嶋広太郎さん (鳥栖市勤務)



がん治療に新しい可能性を

— 最先端医療の現場で

- 1990年4月 弘学館中学校入学
1996年3月 弘学館高等学校卒業
1997年4月 九州大学医学部入学
2015年3月 九州大学大学院修了
(その間同大学病院や九州がんセンターなどで勤務)
2017年3月 サガハイマツト主任医長

(2017年11月現在)

切らずに治す。

サガハイマツトの魅力。

放射線治療のひとつである「重粒子線がん治療」を受けられる場所、「サガハイマツト」。ここで行われる治療はがん病巣に集中的に照射し、正常細胞を傷つけにくいことが特長です。

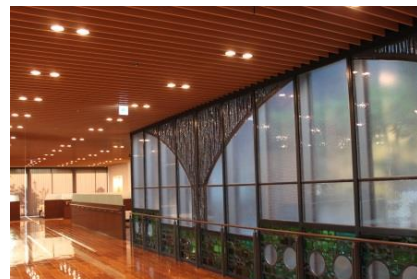
切らずに治療ができるという点以外にも、通院治療が可能で、治療期間が短く済むこと、副作用が少ないこと、そして今まで治療が難しかったがんにも治療の可能性が生まれたことなど、「患者さんに優しい」魅力がいくつもあります。

このような治療を受けられる施設は世界にまだ10ヶ所ほどしかありません。ただ特殊な治療をする場というのではなく、これから進歩していく可能性を持っている技術であることを踏まえて「新しい治療」を創っていく役割があると考えています。

最善の治療法を求めて。

「最先端の治療装置があるがん治療センター」と聞くと、何となく怖いというイメージを持つ方もいるかもしれません。しかし実際は、木の温かみを生かし、ステンドグラスや緑を取り入れ、患者さんがリラックスして治療を受けられるような空間となっています。

また、何ヶ月も待たなければ治療を受けられないのではという心配する必要もありません。基本的には電話をいただいてから1～2週間以内には対応できるように心がけています。初診の際には、1時間、時には1時間半ほど話をします。やはり大切なのは、患者さんが納得して治療を受けられることです。説明をしながら、患者さん一人一人にとって最善の治療法とは何なのかを一緒に探していきます。



患者さんを優しく迎え入れるステンドグラス

寺嶋広太郎さんのとある1日

8:00 外来・診察

12:00 昼食・休憩

13:00 外来・診察

17:00 カンファレンス(月・水)
治療計画

20:00 論文作成等

後輩へのメッセージ

中・高生の時期は、部活動にも打ち込みました。あまり帰省せず、寮で時間を過ごすことが多かった分、寮での思い出も多いです。受験での合格は一つの目標にすぎず、ゴールではありません。今しかできないことを大切にしたいと思います。また、合格した後もその先にあるものの準備期間として日々努力を重ねていく必要があります。常に挑戦し続ける気持ちを忘れず、今を大切に過ごしてください。